

機関番号：34310

研究種目：若手研究 (A)

研究期間：2008～2010

課題番号：20682002

研究課題名 (和文) 日本哲学の根本概念について—西田哲学と京都学派の現在

研究課題名 (英文) On the fundamental concepts of Japanese philosophy
The actuality of Nishida philosophy and the Kyoto School

研究代表者

ダリシエ・ミシェル (DALISSIER Michel)

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：30468532

研究成果の概要 (和文)：ヨーロッパの形而上学と東洋思想を統一しようとしている現代日本哲学の根本概念、つまり「場所」や「無」そして「影像」などを探究した。その結果、日本哲学は、自身の伝統を果てなく考え直していく中国哲学や、ギリシャ哲学の根源から目的論的に科学の理想を目指してゆくような西洋哲学とは異なり、21世紀の世界のための哲学に重大な貢献をすすると思われる。

研究成果の概要 (英文)：Contemporary Japanese philosophy is trying to unify European metaphysics and Asian thought. This research explored some of its fundamental concepts such as “place”, “nothingness” and “image”. As a result, it can be shown how Japanese philosophy, by contrast to the Chinese way of endlessly rethink its own tradition, or to the Western speculation, aiming at the teleological ideal of science since the Greek source, has made a seminal contribution to the coming philosophy of the 21th century.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	4,100,000	1,230,000	5,330,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：日本哲学、西田哲学、京都学派、中国哲学、統一、無、書き込み

1. 研究開始当初の背景

世界において「日本哲学」という表現は未だ精密に定義されていないのが現実である。ある意味で、まだ定義化されていない日本哲学の独創性とはなにか、という問いかけに対し

て、自問している哲学者や日本研究者は少なくないが、本格的な研究課題として捉えている研究者は極めて少ない。

実際、大学でも日本哲学を授業で取り上げることは稀である。しかし近年、日本哲学に関する研究が世界的に増えてきている。一体

それはなぜなのか。加えて、日本哲学についてのアプローチは、日本だけではなく世界で拡大されつつある。しかし、それは真の意味で日本哲学研究の「国際化」と言えるのか。実際、日本哲学の意味を探究する際には、従来の比較対象であったドイツ形而上学や英米哲学との関係のみを取り上げることは不十分であり、フランスと中国と日本の知性的関係も力説する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、まず未だ世界で認知されていない「日本哲学」という定義の独創性を探ることであった。そもそも頻繁に取り糺される、日本哲学は西洋における意味での哲学として見なされるのか、あるいは東洋思想に属するのか、という問題を取り上げる代わりに、ごく直接的に日本哲学自体の問題性や根本概念を取り上げることに重点を置いた。そのために、日本研究を考える上での新しいアプローチを紹介することを可能にする。つまり、それは日本哲学の哲学的方法や根本概念を吟味し、世界哲学の内にその存在を位置付けることであり、とりわけ他の伝統に比べて「日本」の哲学的立場を際立てることにある。その際、京都学派の哲学に関する体系的なコレクションを作成することが欠かせなかった。

3. 研究の方法

本研究は、哲学における一般的な理論的概念や言語の分析だけではなく、日本人哲学者の個人文庫で実践的な「書き込み調査」の方法を発展させた。なぜなら、それによって、個人的に受けた影響や知識、そして読書量などを計る材料となるからである。また、西洋哲

学と東洋思想との関連を分析するために、日本語、英語、仏語、独語、中国語を駆使した。その際、日本や韓国、そして香港で開催された国際シンポジウムで発表し、世界における日本哲学の立場を認識し、国際交流を促進した。

4. 研究成果

本研究によって、「場所」や「無」そして「影像」や「構想力」などを日本哲学の根本概念として捉えることができた。また、京都学派の哲学は、日本哲学全般ひいては西洋哲学と東洋思想との関連から研究した上で、日本哲学の独自性が現われたと言える。つまり、京都学派の哲学は、哲学的歴史上初めて世界の諸々の哲学的伝統を総合しようと試みたこと、また将来ないし 21 世紀の世界哲学の基礎を築こうとしたことを確認できた。

例えば、これからの哲学は、一国の伝統だけではなく、世界の最も重要な哲学的伝統に根付くような包括的な考え方になると思われる。その結果、日本哲学とフランス哲学（とくにベルクソン）の徹底的な関係を明らかにした。また、西田哲学における中国思想の根本的な影響を取り上げる最初のアプローチが可能になった。つまり、初期の西田哲学だけではなく、中期の「場所的論理」や、晩年の実践哲学を理解するために、儒教や道教は不可欠になる。

上記の成果は、多言語で授業や講演、そして学会発表、また雑誌論文や著作や翻訳書において公開した。その意味で、本研究は専門家だけではなく、学生や大学院また大衆に日本哲学の知識を促進した。

要するに、本研究の方法論は今後の日本哲学に関するリサーチを刺激した上で、日本哲学の国際的特性を限定したと言える。

これからの研究の展望としては、一方ではもう少しを絞り、日本哲学とメルロ＝ポンティやレヴィナス、またアンリなどといった現代現象学者の思想との関わりを探究する。とりわけ、戦後のフランス思想と日本哲学との関係は未だ十分に引き上げられていないと思われる。他方では、西田哲学と比較しながら、

現代中国哲学の代表者であった牟宗三^{ぼうしゅうさん} (Mou Zongsan 1909-1995)の哲学を取り上げたい。また、初めてヨーロッパで日本哲学を体系的に紹介する作品がパリのヴラン社 (éditions J. Vrin) で2011年末に出版予定である。*Philosophie japonaise : textes clés* (『日本哲学の鍵-テキスト』、Dalissier, M.・永井晋・杉村靖彦編)。それが本研究の成果の集大成の一つと言えるであろう。本書が出版されることにより、ヨーロッパで日本哲学の存在が一步前進することになるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12件)

- ① M.Dalissier 「西田哲学—解釈の独自エッセイ」、国際シンポジウム2010「東アジアの近代と文化形成」同志社大学大学院文学研究科、報告集、査読あり、pp. 79-86.
- ② M.Dalissier 「西田哲学—獨自演繹的読讀」(中国語訳)、国際シンポジウム2010「東アジアの近代と文化形成」同志社大学大学院文学研究科、報告集、査読あり、pp. 231-236.
- ③ M.Dalissier « La pensée de l'unification », *Philosophes japonais contemporains*, sous la direction de Jacynthe Tremblay, Presses de l'Université de Montréal, 査読あり, 2010, pp.109-123.
- ④ M.Dalissier 「西田哲学についての論述の試み」『西田哲学会年報第7号』、査読あり、7月2010、pp. 119-140
- ⑤ M.Dalissier « Nishida Kitarô and Chinese Philosophy. Part 2 : Debt and Distance », *Japan Review Journal of the International Research Center for Japanese Studies*, 査読あり, no. 22, July 2010, pp. 137-170.
- ⑥ M.Dalissier 「直観から構想力へ —三木清のベルクソン論—」『思想』2009年第12号、査読あり、岩波書店、pp. 99-117。
- ⑦ M.Dalissier « Nishida Kitarô and Chinese Philosophy », in Lam Wing-Keung and Cheung Ching-yuen (ed.), *Frontiers of Japanese Philosophy 4 : Facing the 21st Century*, 査読あり, Nanzan, Nagoya, 2009, pp. 211-250.
- ⑧ M.Dalissier *Anfractuosité et unification . La philosophie de Nishida Kitarô*, 査読あり, Droz, Genève, 2009, 640 pages.
- ⑨ M.Dalissier « La topologie philosophique . Un essai d'introduction à Nishida Kitarô », *Les archives de philosophie*, 査読あり, Cahier 71-4 hiver, Centre Sèvres, Paris, 2008, pp. 631-668
- ⑩ M.Dalissier « La notion de comportement selon Heidegger », *Revue philosophique de Louvain*, 査読あり, no. 2, mai 2008, pp. 270-303

- ⑪ M.Dalissier 「西田幾多郎：窪みと統一」、『理想』681号特集「西田哲学の諸問題」査読あり、理想社、2008年7月、pp. 181-185
- ⑫ M.Dalissier « Nishida, interprète de Bergson. 2) Bergson et le doublage », 『人文』, 査読あり, 第7号, 学習院大学人文科学研究所, 2008, pp. 1-44.

[学会発表] (計 12件)

- ① M.Dalissier 「西田哲学 解釈の独自エッセイ」国際シンポジウム「東アジアの近代と文化形成」2010年11月21日、同志社大学
- ② M.Dalissier 「「Pure experience’, ‘junsui keiken’, ‘expérience pure’, ‘reine Erfahrung」」西田哲学会 第8回年次大会、外国語セッション、2010年7月24日、明治大学。
- ③ M.Dalissier 「西洋哲学と西田哲学との間」、2009年10月7日、研究発表、同志社大学。
- ④ M.Dalissier « Sakabe Megumi: A Scenic Philosophy », 2009年6月4日、Evening Seminar、国際日本文化研究センター
- ⑤ M.Dalissier 「西田哲学についての論考」、2009年2月21日、日文研基礎領域研究「文化論の基礎概念と方法」(鈴木貞美)、国際日本文化研究センター
- ⑥ M.Dalissier “Some influences of Chinese Philosophy on Nishida Kitaro” (part 2), 2008年12月14日、国際会議: “Envisioning Japanese and Chinese Philosophical Potentials in the 21st Century”, 香港
- ⑦ M.Dalissier “Some influences of Chinese Philosophy on Nishida Kitaro (part 1)”, 2008年8月3日、第24回国際会議, ソウル
- ⑧ M.Dalissier “Nishida Kitaro and Japanese Philosophy”, 2008年8月2日、第24回国際会議, ソウル
- ⑨ M.Dalissier 「西田哲学についての論述の試み」、2008年7月27日、西田哲学会第6回年次大会, 西田幾多郎記念哲学館。
- ⑩ M.Dalissier 「下村寅太郎のプラトニズム」、2008年7月12日、京都宗教哲学会, 京大会館。
- ⑪ M.Dalissier 「三木清の「構想力の論理」」, 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育センター」(UTCP) 日本思想セミナー, 2008年6月10日, 東京大学
- ⑫ M.Dalissier 「第24回(2007年度) 渋沢・クローデル賞」受賞式における講演: 「西田幾多郎: 暴露された無」, 2008年4月8日, 日仏会館

[翻訳] (計 2件)

- ① *La science expérimentale* suivi de *Explications schématiques* [西田幾多郎の「経験科学」と「図式的説明」の仏語訳] (共訳: Dalissier, M. & 伊原木大祐), l’Harmattan, Paris, 2010, 399 pages.
- ② “La dialectique de Hegel considérée de mon point de vue” [西田幾多郎「私の立場から見たヘーゲルの弁証法」の仏語訳] (共訳, Dalissier, M. & 伊原木大祐), *Revue Philosophie*, no. 103, Éditions de Minuit, 2009, pp. 51-76

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ダリシエ・ミシェル (DALISSIER Michel)

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：30468532

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし